

Case Study

09/25

継続的な発注のポイントは学会内での連携と信頼関係

発注者 日本リハビリテーション連携科学学会



広報委員長 矢野 秀典氏



業務発注のきっかけは多分野「共通の広場」である学会

長年、介護予防・健康増進分野を専門に研究してきた矢野秀典氏。目白大学保健医療学部理学療法学科で教鞭をとる一方、日本リハビリテーション連携科学学会（以下、学会）では平成29年より広報委員長を務めており、学会ホームページの運営責任者でもある。バーチャルメディア工房ぎふ（以下、メディア工房）への業務発注のきっかけや日頃依頼している業務はどのようなものなのか。

「当学会は、医療・保健・福祉等に関連する数多くのリハビリテーション関連職種の方によって構成されています。またリハビリテーション専門職種だけでなく、障害当事者も多く参加されています。その中で、メディア工房代表でご自身も障害当事者である上村数洋さんが平成23年から学会理事となっています。そのご縁から、学会側から上村さんへホームページ作成・管理運営やパンフレット制作を依頼できないかと打診しました。」（矢野氏）

業務のやり取りはスムーズで、急な依頼にも的確に対応してもらえる

ホームページの立ち上げ時から、主に在宅就業の障害者である平田氏を窓口により取りしているという。

「メディア工房の担当者は在宅ワーカーの平田さんです。ホームページを制作していただいて以降、毎月初めに1度、ホームページの更新を依頼しています。私が広報委員会内の意見集約を行った後、依頼メッセージとともに必要な素材をグループウェア上で共有し、その後の作業は全てお任せしています。このグループウェア上では、学会・メディア工房双方の関係者全員が閲覧できるようになっていますので、連絡が簡略化され、情報共有のスピードが早く、抜け漏れもありません。平田さんとはまだ直接お会いしたことはありませんが、現在までとても円滑にやり取りできています。納期は必ず守っていただけますし、レスポンスも早くて正確です。毎月の更新以外にも、学会大会の告知等を行う際はその都度対応を依頼していますが、その際にも1~2日間程度で対応してくださるので大変助かっています。また、私はこれまで平田さんの障害について詳しく存じ上げませんでした。業務上で不都合を感じたことは一度もありません。いつもお世話になっていますので、いずれお会いしてみたいですね。」（矢野氏）

学会内での業務発注は合理性が高い

学会は今期、パンフレットのリニューアルを行うことになり、その制作業務もメディア工房に依頼するという。

「広報委員会としては、学会を外部へアピールするための重要なツール制作をお任せするにあたり、メディア工房さんが十分なスキルをお持ちであることをこれまでの業務で実感しています。また、上村さんが当学会の理事ということもあり、メディア工房さんと当学会の間には強い信頼関係があります。日頃から近いテーマを研究している方が代表を務める組織に業務をお願いすることは、とても合理的だとも思います。ですので、私たちとしては、馴れ合いの関係にならないよう気を引き締めつつも、今後も継続的に業務を依頼したいと考えています。将来的には、ホームページやパンフレット以外にも、大会運営に関わる事務等を依頼できないか検討していく予定です。」（矢野氏）



発注者情報

■リハビリテーション諸科学の有機的連携、トータルリハビリテーションを目指す

医学・教育学・心理学・社会福祉学・工学など関連諸科学の研究者、医療・教育・福祉・職業などの分野における実践家の「共通の広場」として平成11年に設立。

日本リハビリテーション連携科学学会

<http://www.reha-renkei.org>

〒112-0012

東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学大学院人間総合科学研究科 リハビリテーションコース事務室気付